

立花南遺跡現地説明会

北上市立埋蔵文化財センター

土器づくりの村と大型竪穴住居跡



【調査要項】

| | |
|------|-------------------|
| 遺跡名 | 立花南（たちばなみなみ）遺跡 |
| 所在地 | 北上市立花 10 地割 |
| 調査期間 | 平成 27 年 7 月 29 日～ |
| 調査目的 | 個人住宅建設 |
| 調査面積 | 83 m ² |

1 遺跡の位置と概要

立花南遺跡は奈良時代末～平安時代初頭(8世紀末～9世紀前葉)の村の跡です。北上川東岸の自然堤防上、展勝地の北側に位置しています。今までに住宅建設や堤防工事に関連し10地点以上の発掘調査が行われており、その結果から住宅街のほぼ全面に当時の村が埋没していると考えられます。北上川の両岸には同じ時代の村の跡が多数見つかっており、東岸には横町遺跡(立花)、菅田遺跡(黒岩)、西岸には牡丹畑遺跡(里分)、千苺遺跡・中村遺跡・下川端遺跡(二子)などが分布しています。中でも立花南遺跡、千苺遺跡、中村遺跡からは多数の土器を焼いた穴が見つかっており、奈良～平安時代の土器づくりの村としては、北東北で最も古い段階であったことが近年の研究でわかってきています。



周辺の調査区と竪穴住居跡

2 調査結果

今回の調査では竪穴住居跡1軒(SI098)、溝の跡4本(SD099～102)がみつけられました。

SI098 は出土遺物から、8世紀末頃のものと考えられます。8.0m×6.8mの長方形で、火災で焼け落ちたため、構造材が炭になり良く残っています。屋根の垂木が平行に並んでいることから、切妻型の屋根だったと考えられます。また、炭化した垂木の上に豊富な焼土が見られることから、屋根の表面に土を乗せる「土屋根」であったことが分かります。さらに壁には炭化した板材が並んでいることから、壁は土がむき出しではなく、板材＝腰板が並べられていたことが明らかになりました。腰板を持つ住居跡が見つかったのは、北上市内では初めてです。

この時期の竪穴住居跡は一辺4～5mの正方形が多く、長辺8mを測るこの住居跡は本遺跡でみつけた中で最大です。また、市内でも当時最大級であることから、集落の指導的な立場の人物が居住していた可能性があります。

この後、焼土と炭化材を除去し、柱穴やカマドなどを調査していく予定です。



SI098 竪穴住居跡 炭化材出土状況(東から)

土屋根の復元竪穴住居(仙台市 山田上ノ台遺跡)



立花南遺跡とその前後の時代 ※着色部分が立花南遺跡の時代

| | | | | | |
|-----|-------|--------------------------|-------------------|---------------|--|
| ∫ | | 江釣子古墳群 (600～700 年代) | 805 | 延暦 24 | 徳政相論 (蝦夷との軍事と平安京の造作を中止) |
| 724 | 神亀 1 | おおののあずまひと 大野東人が多賀城建置 | 811 | 弘仁 2 | 和我・稗縫・斯波の三郡建置『日本後紀』。 爾薩体・開伊の戦い (38 年戦争の終結)。志波城廃城の建議 |
| 781 | 天応 1 | 桓武天皇即位 | 869 | 貞観 11 | 5 月陸奥国大地震。多賀城被害 |
| 789 | 延暦 8 | すまき 巢伏村の戦い、アテルイに朝廷軍敗退 | 915? | 延喜 15 | 十和田火山噴火『扶桑略記』 |
| 794 | 延暦 13 | 平安京遷都 | ∫ | | 国見山廃寺隆盛期 |
| 797 | 延暦 16 | 坂上田村麻呂征夷大將軍任命 | 1051 ∫ 1062 | 永承 6～ 康平 5 | 前九年合戦 「正任(黒沢尻五郎)」 藤原清衡誕生 (1056・天喜 4) |
| 802 | 延暦 21 | 胆沢城造営『日本紀略』。アテルイら降伏 | 1083 ∫ 1087 | 永保 3～ 寛治 1 | 後三年合戦 |

北上市立埋蔵文化財センター 平成 27 年度行事予定

埋蔵文化財センター公開：施設公開 平成 27 年 10 月 17 日 (土) (みちのく民俗村まつり同時開催)

埋蔵文化財展：「北上の国指定史跡(仮)」平成 28 年 1 月 7 日 (木)～11 日 (月) さくらの百貨店北上店 3F 催事場

発掘調査報告会・講演会：平成 27 年度市内遺跡発掘調査報告、講演会「北上の国指定史跡(仮)」講師：本堂寿一(元北上市立博物館長) 平成 27 年 1 月 9 日 (土) 現代詩歌文学館